

# あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 4 号 平成13年6月

発行元 福島市中町 8 番 2 号

財団法人福島県農業振興公社

TEL 024-521-9833 FAX 024-524-2393

## ムラが動き出す！

担い手へ集積された農地

個人営農から地域営農へ

(集積が行われた農地：猪苗代町 戸ノ口地区)



従前の耕作状況 (25名)



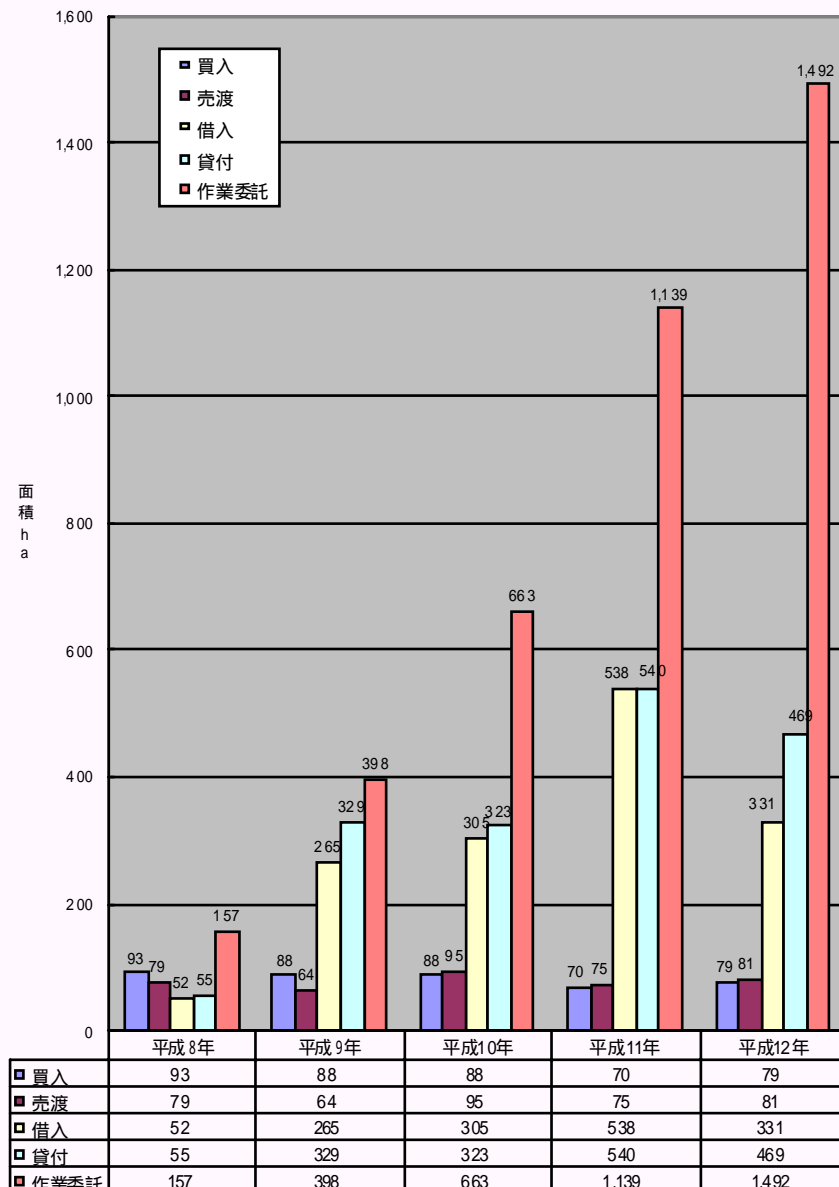
## 農地調整課

5年間で5.6倍（売買等延面積）！

平成12年度農地保有合理化事業等の実績がまとまりました。

この内農作業受委託は1,492haと大幅な増加となり、全体的に賃貸借、農作業受委託の業務が増加傾向にあります。

福島県農業振興公社事業実績(8～12年度)



## 本県3人目の「農地保有合理化推進士」誕生!!



去る、平成13年3月13日 東京都の全国都市会館において、宮本 繁課長補佐が「農地保有合理化推進士」として、全国農地保有合理化協会から認定されました。この「農地保有合理化推進士」は全国で29名が既に認定されており、本県からは、片平純農地調整課長、遠藤貢市主任主査に続く認定となります。

## 青年農業者等育成センター

### 初めての償還免除額は、54名、39,000千円

経営開始支援資金については、貸付けしてから5年経過した時点で要件を満たしている場合、償還を免除することが出来るとしています。

平成7年度に貸付けした62名の内、平成12年度に償還免除要件を満たした54名について、貸付額39,000千円の償還を免除しました。

### 経営開始支援資金を一部改正しました

新規就農者が営農確立のための資格の取得、技術の習得等に充てる資金として、貸付けている経営開始支援資金の用途等を平成13年度から一部改正しましたが、改正の主な内容は、以下のとおりです。

- ・ 貸付対象経費からパソコン購入費を除外した。
- ・ 試作栽培等の種苗・資材の購入費、機械・施設のリース料を貸付対象経費とした。
- ・ 新規参入者の貸付限度額を120万円から100万円に減額した。

## 総務課

当会社の理事、監事及び評議員を紹介します。

### 1. 理事及び監事

役職名	氏名	職名
理事長	安藤通弘	元福島県出納局長
専務理事	小林憲雄	元福島県農林水産部次長
理事	植田英一	福島県酪農業協同組合代表理事組合長
"	橋本丑恵	福島県土地改良事業団体連合会副会長
"	相楽新平	福島県市長会（須賀川市長）
"	芳賀文雄	福島県町村会副会長（鮫川村長）
"	石村義光	福島県経済農業協同組合連合会代表理事会長
"	佐川栄蔵	福島県農業会議副会長
"	菅野純紘	福島県農林水産部長
監事	大内忠夫	福島県出納局長
"	北條武勇	福島県信用農業協同組合連合会常務理事

### 2. 評議員

役職名	氏名	職名
会長	長谷川英雄	福島県農林水産部次長
副会長	高城淳起	福島県農業協同組合中央会常務理事
評議員	佐藤長久	福島県農林水産部農林総務課長
"	吉野正榮	福島県農林水産部農村振興課長
"	小松信	福島県農林水産部農業経営指導課長
"	藤川光紀	福島県町村会常務理事兼事務局長
"	水野秀一	福島県農業会議事務局長
"	郷紘一	福島県土地改良事業団体連合会参事
"	高田泰	農業委員会（原町市農業委員会長）
"	鈴木英雄	福島県指導農業士会長

## 「農業との出会い、人との出会い」

白河市 天野 雄介

新規就農して4年、東京生まれの私は、決して農業や田舎暮らしに憧れがあった訳ではありません。

農業に取り組む以前は、ごくごく普通のサラリーマンでした。しかし、農業に真剣に取り組む、挑戦を続ける人々に出会う機会があり、就農を決意しました。「農業では食べていけない」「安定した生活ができない」等、批判的なことがよく言われる中、経済的にはもちろん、素晴らしい農業生活を実践している姿に感動しました。

しかし、いざ農業を始めようとなると、様々な問題がありました。農業技術の習得、就農地の決定、農地の確保等、多くの問題に加え、資金の心配もありました。



(トマトハウスの前で)

私の場合は、就農地の選定や、視察、研修、大型特殊(トラクター)免許等、準備段階で福島県青年農業者等育成センターの経営開始支援資金を活用し、多くの問題をクリアしました。

しかし、就農後にも次々と問題は起こりました。天候不順や、病気、害虫・・・しかしそんな時、本当に助けてくれたのは「人」でした。農業を始めたのも人との出会い、農業を続けていけるのも人とのよい出会いがあったからだと思います。

目標を高く持ち、多くの仲間と共により充実した農業生活を実践していきたいと思っています。



(トマトハウス内でご家族と)

### 編集後記

21世紀新年を迎え、農業への思いが募る今日このごろ、「農業が滅べば国が滅ぶ」との人類歴史の教えが、昨今の日本農業事情を見ると重くのしかかってきます。しかし日本の水田は、生産力が高くかつ自然を守り、国土を守る国民の財産であり、宝物です。知恵を使い汗を流し、共に手を取り合って農業へ希望と喜びを託したいと思っています。

(S, N)

### 問い合わせ

あて先 〒960-8681  
福島県福島市中町8番2号  
財団法人福島県農業振興公社 総務課  
TEL 024(521)9834 FAX 024(524)2393  
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

この広報誌は、再生紙を利用しております。

「あなたを、守る シートベルト 忘れないでね」